

# 建築デザイン計画

ランドスケープ(公園センター及びその周辺)について、コンセプトと基本設計における「デザインの方向性」の重要なポイントをご説明いたします。

プランは検討中のため変更の可能性があります。

## 0 全体意匠計画

人と人、都市と自然を繋ぐための意匠デザイン。内外(人と自然)をつなぐ回廊空間の意匠(軒天、建具、床)や運営と活動をつなぐ広瀬川カウンター、また市民と観光客をつなぐイベント情報展示など、繋がりを生むデザインとします。

## 7 和室と露地

露地や準備室・水屋・床の間などを設け、市民活動や観光客向けの和文化プログラムに対応します。

## 6 交流体験スペースとラウンジ

公園利用者のランチスペースとして使ったり、レクチャーを行うなど、市民活動を支えるフレキシブルなスペース。可動間仕切りを解放することで最大250名収容可能。ラウンジはイベント時には、受付などの役割を果たします。

## 5 カフェとホワイエ

カフェの一角にオープンなカフェカウンターを設けることでライブラリーや交流体験スペースとの連携利用を促します。

## 4 回廊と可変性のあるガラス間仕切り

公園センターを囲う回廊は自由に行き来できる。一部開閉自由な間仕切りによって半屋外空間の環境に対応します。夏は開放してテラスと一体的に利用し、冬は閉めることで温室となります。

## 1 乗降場と大規模展示

乗降場からのアクセスを受けるサブエントランスは、軒先に破風を設け、山鉾など大きな展示物の搬入が可能。ショップは物産品の他に、公園利用のニーズに対応したのもも提供できます。

## 2 ゆったりとした情報ラウンジ

ゆったりとしたラウンジのような空間で、思い思いに過ごしながら仙台の様々な情報に触れます。和を意識した意匠の空間で庭(オモテ林1)を眺めながらくつろげます。

## 3 広瀬川カウンターとライブラリー

ライブラリーの中央に設置された「広瀬川カウンター」。仙台のシンボル・広瀬川をモチーフにした多目的カウンターは職員と市民、市民と観光客が自由に繋がりがあえる仕掛け。



面積表

室名	面積	備考
1 巨室1	276	北東の回廊(落ち線を除く)
2 風除室1	7	
3 巨室2	184	南西の回廊(落ち線を除く)
4 風除室2	11	
5 エントランスホール	51	案内所5㎡(1~2名乗が常駐)
6 情報ラウンジ	255	一人当たり2~3㎡>>100名収容相当
7 企画ギャラリー	33	映像投影できるプロジェクション設備を設置
8 ショップ	44	
9 ショップ倉庫	5	
10 クローク	5	8ボックス×5機
11 トイレ1	45	男性(大3小4)・女性(7)・多目的トイレ
12 多目的室	7	音響や照明など自由に使える個室
13 事務室	50	一人当たり5㎡>>10名収容相当
14 給湯スペース	11	広瀬川カウンター側からも利用可能
15 倉庫1	33	
16 ライブラリー	208	一人当たり3㎡>>20名収容相当
17 活動スペース	22	一人当たり2㎡>>14名収容相当
18 ホワイエ1	87	緩やかに傾斜する(1/12未満)
19 ホワイエ2	98	
20 倉庫2	11	
21 授乳室	7	ベビーベッド・授乳コーナー・水道など設置
22 カフェ	153	一人当たり3㎡>>55名収容相当
23 カフェテラス	44	一人当たり3㎡>>22名収容相当
24 キッチン	39	高床75%+キッチン25%>>45㎡相当
25 体験・交流スペース	295	最大250名収容相当
26 ラウンジ	33	一人当たり2㎡>>22名収容相当
27 テラス	66	開閉可能な建具により冬は温室となる
28 トイレ2	41	男性(大3小4)・女性(7)・多目的トイレ
29 屋外トイレ	5	多目的トイレ
30 倉庫3	19	小ホール椅子250脚などを収納
31 倉庫4	3	
32 礼室	49	12畳×2室(8畳×3室でも検討中)
33 庭	31	礼室の玄関となり、来賓時の動線となる
34 準備室1	5	礼室での活動を支える管理員の部屋
35 準備室2	11	礼室での活動を支える管理員の部屋
36 水屋	5	大浴場などでも利用可能
37 個室トイレ	5	
38 スタッフトイレ	11	男性(大1小1)・女性(2)・多目的トイレ
39 防災倉庫	11	災害時月動資の倉庫
40 室内機	20	圧縮機出し空調に必要な室内機収納
41 電気・設備室	92	電気室・弱電機室・消火設備室
42 搬入口	8	
43 清掃作業所	16	
44 廊下	43	
合計	2456	

